

玉川学園は2006年から幼小中高一貫教育『K-12 一貫教育』を実施しています。「K-12」は「幼稚園 (Kindergarten) から始まり高等学校を卒業するまでの期間」の呼称で、幼稚園、小・中・高等学校という学校種の枠を越えた教育の連結性・一貫性を考えるコンセプトとして使用しています。小学部から高等部までの各学年を1～12年とし、さらに3つのディビジョン『Primary Division』『Secondary Program Division』『IB Programs Division』を設けています。

Primary Division (幼稚部および1～5年) = 幼稚部および小学校1～5年

Secondary Program Division (6～12年) = 一般クラスの小学校6年～高校3年

IB Programs Division (6～12年) = IBクラスの小学校6年～高校3年

玉川学園[幼小中高]

令和6年度学校関係者評価結果

K-12 父母会役員からの意見聴取 (まとめ)

2024年度の学校関係者評価会議では、本学への要望・期待について、保護者の視点からご意見をいただきました。主なものは次のとおりです。

◆K-12 教育活動について

<Primary Division>

- 先を見据えた活動の1つとして、各学年の1つ先のディビジョンの授業を子供や親に定期的に参観させ、次の進学に向けた学習の準備や心の準備をする機会を設けて頂けると、先の目標設定がしやすいのではと思います。
- 所属ディビジョンはもちろん、他ディビジョンについても詳しく知る良い機会となりました。コロナ禍を経て、内容が縮小されていたものが元の活動に戻ってきていることは、先生方や学園の努力の賜物だと思っております。コロナ前の良いところ、コロナ後に変わった良いところ、それぞれの良いところを取り入れたハイブリッドな取り組みは今の時代に合っていて良いと思います。幼稚部から大学までがあるワンキャンパスの強みを生かした活動に関しても、児童の活動だけでなく、先生方の研修会なども活発に行われ、それが授業や活動、行事に生かされていると感じます。
- 教員の「質」について改めて提言させていただきます。Primary Divisionの5年間を通して、教員の児童に対する向き合い方に疑問を感じることもありました。児童・保護者に挨拶できない、児童の考えを否定する、などといった出来事を見聞きしており、それらが児童たちの教員に対する信頼感の低さにつながっている印象を受けております。外国籍教員が増える中、子供たちの見本となるべき教育者としてのあるべき姿を見直し、児童との信頼関係の構築を図ることが最優先だと感じています。
- 95周年の発表は非常に印象的で、会場全体が一体となって歌を楽しんでいた様子が、玉川ならではのなと感じました。子供たちの歌声に感動しました。

<Secondary Division>

- 地域連携、企業とのコラボレーションなど、常に新しいこと、そしてたくさんを試みてくださり、子どもたちが大いなる刺激を受けていると感じました。そしてコロナ以降の著しい出生率低下については危機感を感じました。玉川学園—全人教育—IB 以外に何か特化する特長を持つことを期待しております。
- それぞれの課題に対してしっかりと実践していただいていることが分かりました。
- 全人教育、STEAM教育を基盤に、各年齢での玉川らしい教育が実践され、結果として、入学者数の増加に繋がっていて、素晴らしいと思います。学校全体で同じビジョンを共有し、一体感が感じられました。
- 外国籍の先生方の玉川学園の教育への理解度について少し不安があったが、研修会等で補われているという事に安心した。

<IB Division>

- 教職員の研鑽にも尽力されていることに、学園に対する信頼感と心強さを感じました。
- 課題の改善対策をお願いします。

<Division 共通>

- 各ディビジョンに於いて、具体的な目標が定められておりその目標に向かってしっかり取り組まれていることがよく伝わってきました。初めて参加させていただきましたが、「自己評価する」ということはなかなか難しいのだろうな、とも思いました。
- 各ディビジョンともに様々な取組みをされていて、父母会総会で父母から御意見もありましたが、教育上の数字スコアだけを追っているわけではなく、多様な視点を持った子供・生徒になるように指導して頂いているな、と感じます。一方で、世間的なポジショニングやイメージという意味では、他の学校と比べての学力などが定量的にどの程度なのか？について、試験スコアや英語スキルなどの定量評価の開示が有っても良いかなと、感じました。
- Tamagawa Vision 100 をもとにした各ディビジョンの目標設定とそれに対する活動がきちんとなされていると感じました。コロナも落ち着き、子供たちのための活動が多くなってきたことを嬉しく思います。
- 各ディビジョンの掲げる「課題・重点施策」が曖昧であるため、「達成状況」に具体性がなく、評価基準も明確に定義されておらず、学園側がどのような根拠を以て「達成できた」と評価しているのかわかりませんでした。定量的に評価できない課題ほど、「課題」と「達成基準」を明確にする必要がありますが、全体を俯瞰してこれら二点が明確になっていない印象を受けました。Primary Division を例に挙げると、達成状況に「全教員が重点目標を作成して教育活動の充実を図った」とありますが、各教員がそれぞれ具体的にどのような目標を立てて、その目標に対してどういう Action を起こし、その結果どんな効果が得られたのか、が記されておらず、保護者目線では学園側の評価の根拠と妥当性を判断できません。「課題・重点施策」については、壮大な目標を掲げることが是ではなく、第三者目線で「学園側の評価の根拠と妥当性」を判断できる粒度まで個々をブレイクダウンする必要性を感じました。
- 今回、学園教学部長・各ディビジョン部長方々よりこのようにお話を伺う機会をいただきありがとうございました。所属ディビジョンの部長より話しを聞く機会はありますが、所属以外のディビジョンの部長からお話を聞ける機会はなかなかないので、とても勉強になりました。正直、今回機会をいただかなかっただら、このように素晴らしい評価結果を知らずに過ごしていたかと思えます。もっと他の保護者にもこの評価を広く知っていただきたいなと個人的には思いました。
- 各ディビジョン内及びディビジョン同士の連携が取れていると感じられ、内容についても素晴らしいものだと思います。
- 各ディビジョンの連携について、遠足やマスゲームを通じて、幼稚部と小学部の連携を深める素晴らしい機会だと感じています。この活動を通じて、幼稚部の子どもたちは自然に小学生への憧れを抱き、また、事前に小学部の雰囲気を経験することで、小学部での学びに対する期待や楽しみを持つことができると思います。一方で、中学部と小学部の連携の機会ももう少し増えることを期待しています。
- いずれのディビジョンでも、すべての項目において、適切に進められていることがよくわかりました。学園内の異なるディビジョン間での交流を通して学びを得られることは、まさに学園の強みだと感じます。

◆教育課程特例校

【評価ポイント：特例部分の学習活動が適切に行われていると思うか】（回答：19名）

適切である：63.1% 概ね適切である：26.3% やや不適切である：5.3% 不適切である：5.3%

<JP・EP クラス>

- EP クラスの算数は、英語、日本語とそれぞれ宿題が出されるため、どのくらい理解できているのか、またできない部分は英語なのか、算数なのか、見分けることができるので、非常に良いと感じた。同学年のご家庭に交換留学生在がホームステイしていた。K-12 だからこそ受け入れられる、貴重な機会だと思いました。
- EP クラスについて、スピーキングをもう少し強化して頂けましたら大変嬉しく思います。
- EP クラス 担任の先生が2名いらっしゃるため、質問がしやすい環境。正しい日本語も身に付けて欲しいので、ありがたいです。
- 学習面において、個々の学習習熟度の差が激しいように感じます。個別の理解度を担任の先生がきちんと把握し、細かいサポート（補習、分からない所のプリント配布など）をして、学校の学

習時間内にきちんと生徒が理解する仕組みを作って頂きたいと思っております。

- 十分達成が多く、子供達が学園生活を楽しんで過ごせているのは改めて先生方のお力のおかげだと感じました。
- 英語の教室が近くにあるため、昼休みにはよく遊びに行き、自然と英語で会話をする機会があります。こうした環境が、英語力を伸ばす助けになっており、子どもは楽しみながら英語に親しむことができています。
- きめ細かな指導をして頂いていると実感しています。外国籍教員と日本人教員が指導の共通認識を待ちながら指導にあたっていることが大きいのかなと思います。どのディビジョンでも、ミーティングを密に行い、研修会なども積極的に行われており、それが授業、生徒へ還元されていると感じます。
- 先生と生徒、保護者の距離が近く、学校と家庭で生徒をサポートしている雰囲気が伝わってきました。
- 新科目の設置に係ることかもしれませんが、伝統的な科目＋英語教育に加えて、昨今スピード感が更に増しているデジタルや環境に関する（特にデジタル・システム）科目強化などは学校の独自性につながるのではないかと感じています。
- **Primary Division** では **JP** クラスが **EP** クラスのメリットを間接的に受けている印象を受けましたが、学年が上がるに連れて、双方の交流も少なくなり、別学校と感ずることもあり、双方がもっと交流できる機会があると良いと思いました。
- 学園側の具体的な **Action** とその評価に至った「根拠」が一定示されており、第三者目線でもその評価内容は理解できるレベルで記載されている印象を受けました。一方で、学園側が生徒や保護者向けに **Action** した内容（定期的に **xx** を実施した、**xx** の説明会を実施した、**xx** を配信した、など）について、あたかも全学年に展開されたように読み取れますが、実際には学年が限定されているものが多かったことから、対象範囲を限定している旨記載されるべきであり、今後はその範囲を広げていくことで、各学年によってばらつきのない（平等な）サポートを期待します。

<IB-MYP>

- 9年生のうちから進路選択についてのサポートがあるのは素晴らしいと思いました。
- 生徒個人のレベル分けについて丁寧な対応をお願いしたいと思います。
- **IB** クラスの授業について行かれていないという話を耳にします。一般クラスと時間帯がずれているため同じ学校にいるのにコミュニケーションを取る機会が少なく友人にもなりづらいと感じる面もあります。**IB** クラスで部活動に所属している生徒は時間的に余裕があまりないように感じます。また、ルールや教員の指導についてはディビジョン間で連携して認識を統一して欲しいと思っています。
- 英語力・日本語力の不足部分のサポートを引き続きお願いします。

<IB-DP>

- 課題に対してしっかりと実施していただいていると思います。学内、学外への発信を今まで以上に進めていただきたいと思います。
- 自己評価・活動は妥当であると思います。